

〔倭訓栞阿編二〕あしのけ 和名鈔に、脚病脚氣と見ゆ、あしのけのぼるといへるは、今の脚病衝逆をいふ、源氏物語、うつぼ物語などに、かくびやうといへるも、亦脚病の音なり、略中きや反かなり、よてかくびやうとも、かつけともよめり、後撰集に、

あしびきのやまひはすとも踏かよふ跡をば見ぬは苦しきものを

〔醫心方八〕脚氣所由第一

病源論云、凡脚氣病、皆由感風毒所致也、初得此病、多不即覺、或先無他疾、而忽得之、或因衆病後得之、蘇敬論云、夫脚氣爲病、本因腎虛、多中肥溢、肌膚虛者、無問男女、若瘦而勞苦、肌膚薄實、皮臚厚緊者、縱患亦無死憂、一差已後、又惡、久立冷濕地、多飲酒食、麴心、情憂憤、亦使發動、晉宋已前、名爲緩風、古來無脚氣名、後人以病從脚起、初因腫滿、故名脚氣耳、

〔覆載萬安方一〕二十五卷

- 一 脚氣門 病源論十三卷出八證
- 二 風毒脚氣
- 三 脚病腫滿 左右脚或隻足 脚謂之腫滿
- 四 脚氣心腹脹滿
- 五 脚氣衝心 是頓死之大病、有脚氣之人、預慎之、又急須治之
- 六 脚氣語言蹇澀 無快辨流言、謂之蹇澀
- 七 脚氣驚悸 世俗云腎氣此類也
- 八 乾濕脚氣 乾脚氣痛而不腫也、四肢腫謂之濕脚氣也
- 九 脚氣變成水腫
- 十 脚氣大小便不通
- 十一 江東嶺南瘴毒脚氣
- 十二 論脚氣冷熱不同
- 十三 論因脚氣續生諸病 并灸法

〔喫茶養生記下〕脚氣病

此病發於夕之食飽滿、入夜而飽酒食爲厄、午後不飽食爲治方、是又服桑粥、桑湯、高良薑茶、奇特養生妙治也、新渡醫書云、患脚氣人、晨飽食、午後勿飽食等云云、長齋人無脚氣、是此謂也、近頃人萬病稱脚